

# 地方自治法施行 60 周年記念シリーズ 滋賀県

●ケース表イメージ



●ケース裏イメージ



●内側（三つ折り）イメージ



●表紙イメージ



## 滋賀県

滋賀県は日本のほぼ中央にあり、北は福井県、東は岐阜県、南東は三重県、西は京都府と接しています。  
また、まわりを伊吹、鈴鹿、比良、比叡などの山々に囲まれ、中央に県の面積（約 4,017 平方キロメートル）の約 1/6 を占める日本で一番大きな湖「びわ湖」があります。  
まわりの山々からびわ湖に流れこむ川の数は、大きな川だけでも 120 以上もあります。

**滋賀県章**  
かたかなのシガを図案化したもので、中央のまるいところが、びわ湖をあわしています。びわ湖を中心に円とつばさで県の調和のとれた発展をあらわしたものです。昭和 32 年に指定されました。

**滋賀県の鳥（カイツブリ）**  
全長は約 25cm で成れが様々な湖沼等に生息します。雛が小さいうちは背中に乗せて保護を行うことがあります。古くは「地（にお）」と呼ばれ、琵琶湖の古称「地の海」の語源とされます。昭和 40 年に指定されました。

**滋賀県の花（しゃくじげ）**  
滋賀県産生花目野村の鎌掛谷ホシヤクナグサ群落は昭和 6 年に国の天然記念物に指定されました。昭和 29 年に指定されました。

## 500円ハイカラー・クラッド貨幣

ハイカラー・クラッド貨幣とは、種類の異なる金属を組み合わせた「ハイカラー」技術と、金属板を異なる種類の金属板で挟み込む「クラッド」技術を組み合わせたものです。

（滋賀県）表面【ヒワコオオナマズとニゴロブナ】  
O ヒワコオオナマズとニゴロブナをデザインしています。  
※ ヒワコオオナマズ（Silurus biwaensis）  
琵琶湖淀川水系のみ生息する固有種であり、体長は 120 cm 以上に成長し、20 年以上生きるものもある。昭和 39 年（1964 年）に国産魚種として初めて登録された。  
※ ニゴロブナ（Carrasius asotus profundus）  
琵琶湖淀川水系のみ生息する固有種。体長は 20 ～ 40 cm 程度であり、ふなずしの原料とされる。なお、環境省レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種別リスト）において「絶滅危惧」の種とされていることもあり、滋賀県内では産卵・繁殖の場である水辺環境の整備等が進められている。

500円ハイカラー・クラッド貨幣の概要  
製造 500円  
素材 ニッケル・黄銅、白銅及び銅  
品位 銅75%、亜鉛12.5%、ニッケル12.5%  
裏面【古銭のイメージ】  
直径 7.17g  
厚さ 1.7mm  
重量 28.5g（約）  
その他の特徴 異形サイズの貨幣等